

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
小学校	那智勝浦町立 勝浦小学校	上浦 一剛
学校所在地		
〒 647 - 5334 和歌山県東牟婁郡那智勝浦町勝浦 816番地 tel 0735 (52)0116 fax 0735 (52)1083		
担当者名		担当教科
金澤 有史		6年主任
<p>〔学校の概要〕</p> <p>本校は、和歌山県南部に位置する、児童数300名弱の小学校である。黒潮に育まれる豊かな漁場と全国有数の近海まぐろ水揚げを誇る勝浦漁港を有すると共に、世界遺産の「熊野古道」、日本一の高さを誇る那智の滝、多くの温泉など、名勝に恵まれた観光の町である。</p> <p>教育方針・めざす子ども像として「お互いに高め合う子ども」を設定し、教育目標「よく学び、明るく、たくましい勝浦っ子の育成」を達成するために、教育計画のもと実践している。</p>		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等（延人数）	主な活動場所
6 学年 年生 41 名	6名 職員 3 名	勝浦小学校会議室・大門坂～那智大滝
実践研究テーマ		
ふるさとへの愛着と誇りを持ち、ふるさとに貢献できる子どもの育成		
実践教科等名	単元名	
総合学習	町おこし ～自分たちの町をPRしよう～	
〔キーワード〕 世界遺産学習 PR		
<p>〔単元目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産について知る ・説明を聞き学習しながら実際に熊野古道を歩くことで、熊野古道の歴史的価値を知り、肌で感じる。 ・世界遺産の大切さを知り、守っていこうとする態度を養う。 ・自分が住んでいる地域に、文化的価値が高い名勝があることを誇りに持ち、外部に発信する。 		
〔学習に当たった全学習時間数（世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名／教材名）〕		
全体 16 時間 （「世界遺産について知り、発信しよう 」 8 時間 ）		
〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕		
<ul style="list-style-type: none"> ・和歌山県世界遺産センター ……世界遺産講座 次世代育成事業（現地学習） ・那智勝浦町観光協会 ……町おこしとして児童が作成した世界遺産や地域に関するリーフレットの配布 ・南紀くろしお商工会 ……児童が作成した世界遺産ポスターの掲示 ・那智勝浦にぎわい市場 ……町おこし実施場所 児童によるポスターセッションの協力 		

実践校に関する事項			
〔単元指導計画概要〕			
	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	・世界遺産について知ろう	世界遺産センターの方から、世界遺産についての話を聞き、知識を深める。	感想・ワークシート
2	・世界遺産を歩き、歴史を肌で感じよう (フィールドワーク) ・大門坂 ・那智大社 ・青岸渡寺 ・三重の塔 ・那智大滝	世界遺産センターの方とともに、実際に世界遺産を歩き、自然や文化に触れ、その歴史的価値に気づく。	ワークシート
3	・学んだことをまとめよう	写真や資料から、観光客や世界遺産について知らない人を対象に、伝えたいこと・知ってほしいことを中心にまとめる。	まとめ (模造紙)
4	・世界遺産をPRしよう	まとめたことを、観光客の方に向けて発信する。	発表
5	・学習を振り返ろう	世界遺産学習を通して、自分が感じたこと、考えたこと・よりよい未来をつくるためにできることを考える。	振り返りシート
〔単元学習の成果と課題〕			
<p>(成果) 専門の方に世界遺産について講義をしていただき、実際に説明を加えながら熊野古道を歩くことを通して、世界遺産についての知識は深まり、関心も高まった。普段当たり前のように身近に感じている地域が、世界的にも注目されているうえ、その歴史や大切に保護されている場所であるということに気づき、自信を持って観光客の方に向け発信しようとする態度を育むことができた。</p> <p>(課題) 初めてこの事業に参加し、全体像がつかめないうまフィールドワークに行ったが、世界遺産センターの方に任せてしまえばかりではなく、事前に学習計画に基づいた打ち合わせをしっかりとっておき、学校でも事前学習や世界遺産学習の準備を十分にしておけば、より学習効果が高まったと考えられる。</p>			
〔世界遺産学習の効果〕			
<p>3年生で遠足の際歩いたことのある子ども達であったが、6年生になり知識も増え、また事前学習として世界遺産センターの方にその価値や歴史を教えていただいたため、歩くときの視点や自然の感じ方が以前とは違い、学習が深まっていた。さらに、自分たちが住んでいる地域にある場所が、歴史的価値が高いことに気づき、ふるさとへの誇りや自信が高まった。世界遺産についてもっと知りたいという学習意欲も高まった。</p>			
〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕			
<p>今回は初めての取組として、6年生の学習として位置づけたが、本校では総合学習の単元『ふるさと学習』として3年生から系統的に単元計画を立てている。今回の実践からその成果と課題を学校全体で共有し、世界遺産学習を総合学習の固定カリキュラムとして位置づけていきたい。</p>			

様式 2



世界遺産について学習したことを、ポスターにまとめ発表の準備。さらに、歩くことができなかった那智駅～補陀洛山寺に自分たちで訪れ、補陀洛山寺の方に取材をしました。

学校内でのポスターセッション、保護者の方や先生方に、学習の成果を発表しました。



「町おこし」では、町を歩きながら、観光客の方々に世界遺産のPR活動を行いました。漁港にあるにぎわい市場では、ポスターセッションをしながら、勝浦の魅力の説明をしました。新聞記者の方にも学習の経緯を説明しました。



～児童の感想～

わたしは、町おこしの学習を通して、自分の町のすばらしさ、温かさがすごくわかりました。世界遺産センターの方と学習をしたり、自分たちで取材をしたりしてみると、自分の町のことも知らないことがたくさんあって、とても勉強になりました。特に、補陀洛渡海が伝説の話ではなく、本当にあったことだということを聞いて驚きました。世界遺産について、もっと深く知りたいと思いました。町おこしの準備は大変だったけど、たくさんの方が協力してくれて、たくさんの方が応援してくれて、地域の人たちや観光客の人たちと交流もできてうれしかったです。これからも、勝浦の伝統や世界遺産などを、大切に守っていきたいです。そして、勝浦の魅力を、自分たちももっと知り、世界中の人たちに知ってほしいと思います。